

1 目標（何をを目指すのか。）

【通年】

野鳥園の湿地を保全し、施設を有効活用した環境学習の場を提供し、大阪市と事業者が互いに理解・尊重して、対等な関係のもとに協働で事業を進めていく。

2 使命（どのような役割を担うのか。）

【通年】

- ① 多様な生きものが生息し、特に、様々な種の渡り鳥（長距離を渡るシギ・チドリ類を含む）が利用できる湿地を保全するために、モニタリングと順応的な管理を継続する。
- ② 大阪市内にあって大阪湾を望む景観（「住之江区の都市景観資源」として平成 24 年 12 月 21 日に登録）の中で、湿地を利用する渡り鳥や、それを支える干潟の様々な生きものの観察ができ、渡り鳥や干潟のことを学べる貴重な場を提供すること。

3 平成 27 年度 運営の基本的な考え方（方針）

(1) 渡り鳥を支える豊かな干潟がある野鳥園

多様な生きものが生息し、渡り鳥（生息環境が危機にあるシギ・チドリ類を含む）が多く飛来する豊かな干潟を含む湿地を保全するため、現状を生きものの視点から正確にモニタリング評価し、どのような順応的な管理（手入れ）をすればいいのかを検討する。（→干潟再生プロジェクトチーム）

(2) 渡り鳥と人をつなぐ野鳥園

渡り鳥が多く飛来する野鳥園をより多くの市民に知ってもらうため、環境学習を企画実施し、渡り鳥の魅力やそれを支える貴重な自然環境（生態系）としての干潟の大切さを理解、共感してもらい、一度行ってみたい、また来たいと思われる市民利用施設とする。

- ① 野鳥ガイドの育成および新たな人材の発掘
- ② 市民参加型の環境学習プログラム
- ③ 広報活動の充実化

\*1) 野鳥園内の干潟、塩性湿地、汽水池を含む環境を含めて湿地とする。

4 重点的に取り組む課題 – (1) 湿地の保全～渡り鳥を支える豊かな湿地がある野鳥園～	
将来像 (平成 31 年 3 月末時点)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シギ・チドリ類の種数 <sup>*2)</sup> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春 (3～5 月) : シギ・チドリ類の渡来種数 22 種</li> <li>・秋 (8～10 月) : シギ・チドリ類の渡来種数 24 種</li> </ul>           干潟の順応的管理により、シギ・チドリ類の中継地としての役割を将来にわたって果たしていく。         </li> <li>2. シギ・チドリ類以外で湿地を利用する野鳥の種数 : 60 種 湿地で生活するシギ・チドリ類以外のカモ類、サギ類、その他の野鳥の生息環境を保全する。</li> <li>3. 有機物が堆積しやすく、シギ・チドリ類が好む多様な餌生物が生息している底質の状況。</li> </ol> <p><sup>*2)</sup> シギ・チドリ類の個体数は、東アジアの繁殖地・中継地・越冬地での減少が著しいため、個体数ではなく、種数の目標設定のみとした。</p>
現状 (課題設定の 根拠となる現状)	日本国内の他の干潟と同様に、野鳥園に渡来するシギ・チドリ類の個体数は年々減少している。しかし、野鳥園は、湿地の保全と順応的管理を開園 (1983 年 9 月) 以後から継続して実施しており、生息環境が減少または悪化するシギ・チドリ類の大切な中継地となっている。
要因分析 (目指すべき将来像と 現状に差が生じる要因)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 繁殖地・中継地・越冬地での個体数減少や温暖化による生息環境の変化</li> <li>2. 野鳥園の干潟の現状 <sup>*3)</sup> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 干潟表層の有機物堆積層の流出</li> <li>2) カキ礁の拡大による干潟面積の減少 (北池)</li> <li>3) 干潟の一部の砂質化</li> <li>4) 干潟表層のバイオフィルムの減少</li> <li>5) 地盤沈下による浅場面積の縮小と深場の拡大 (地盤は年間に平均 1 センチ低下) など</li> </ol> </li> <li>4. 干潟周囲林の高木化と高木への猛禽類の定着によって、湿地を利用する鳥類が昼間にじっくりと採食できない状況</li> </ol> <p><sup>*3)</sup> 5 項目の干潟環境の変化はあるが、湿地の生きものの現状は、貝類 69 種を含めて 203 種の多様な海岸生物 (絶滅危惧種は 34 種を含む) がバランスよく生息している。</p>
課題 (上記要因を解消する ために必要なこと)	有機物が堆積しやすく、シギ・チドリ類が好む多様な餌生物が生息し、安心して採食でき、満潮時に休み場がある環境づくり。
戦略	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 南池水門の両側を掘削し、南池から西池への流れをよくし、南池の干出面積を大きくする。掘削土砂は浅場創出に利用する。</li> <li>2. 有機物を堆積しやすくすることによって小型シギ・チドリ類が好む餌場づくりをおこなう。</li> <li>3. 満潮時の鳥類の休み場づくりをする。</li> <li>4. 北池の浅場の砂質化を防ぐ長期的方策の検討 (カキ礁拡大防止も含めて)。</li> <li>5. 干潟周囲の高木 (主にクロマツ) の剪定。</li> </ol>

評価		年度評価 (評価日：平成○年○月○日)	年度評価 (評価日：平成○年○月○日)
	年度目標の 達成状況	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
	取り組み事項		
	自己評価		
	課題と改善策		
	委員評価		

重点的に取り組む課題 - (1) 渡り鳥を支える豊かな干潟がある野鳥園～干潟・湿地の保全～

具体的取組	計画				振り返り				
	点検項目	最終目標	現状(前年度までの実績)	平成27年度目標(当初)	中間実績	平成27年度目標見直し	年度実績	年度目標比較増△減	最終目標比較増△減
鳥類調査	鳥類調査実施回数	26回	10回	23回					
	大阪府一斉ガンカモ調査への情報提供	実施	実施	実施					
	環境省(モニタリングサイト1000)への情報提供	実施	実施	実施					
	干潟再生PTで提示する資料整理(鳥類とくに、シギ・チドリ類の利用状況のモニタリング結果に基づく干潟環境の変化に関する報告書)	毎年データ更新	—	作成					
底生生物調査	底生生物調査	2回	2回	2回					
干潟現況調査	干潟再生プロジェクトチーム(PT)開催	2回	—	2回					
漂着ゴミ回収と除去作業	実施回数	3回	1回	2回					
	ボランティア参加人数	400人	127人	300人					
ヨシ刈等除草	実施回数	5回	1回	3回					
	環境学習との連動	5回	0回	1回					

4 重点的に取り組む課題 - (2) 環境学習の実施～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～

計画	将来像 (平成 31 年 3 月末時点)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な体験型環境学習ができる場として、季節に応じたプログラムを実施する。</li> <li>2. 環境学習および野鳥ガイドは、土曜、日曜または祝日に実施する。</li> </ol>
	現状 (課題設定の 根拠となる現状)	レンジャーが常駐していた以前の指定管理時のように、平日での環境学習の開催ができなくなり、年間の開催頻度が減っている。
	要因分析 (目指すべき将来像と現状 に差が生じる要因)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境学習を開催できる知識のある人材が固定化している。</li> <li>2. 予算の減少のため、環境学習に関して、対応可能な日数と人材登用数が限られ、実施回数が限られる。</li> </ol>
	課題 (上記要因を解消するため に必要なこと)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境学習を開催できる人材の幅広い育成</li> <li>2. 必要経費の捻出</li> </ol>
	戦略	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 少ない回数でも内容の濃い体験型プログラムを実施する。</li> <li>2. 野鳥ガイドの育成を継続して行う。</li> <li>3. 現在の野鳥ガイドのスキルアップ研修を行い、種々のガイドに対応できる人材を育成する。</li> <li>4. 企業からの物的・金銭的支援を受け、企業や市民双方にとって有益で魅力あるイベントを開催する。</li> </ol>

評価		中間評価 (評価日：平成○年○月○日)	年度評価 (評価日：平成○年○月○日)
	年度目標の 達成状況	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
	取り組み事項		
	自己評価		
	課題と改善策		
	委員評価		

\*4)

重点的に取り組む課題 - (2) 環境学習の実施～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～

具体的取組	計画				振り返り				
	点検項目	最終目標	現状(前年度までの実績)	平成27年度目標(当初)	中間実績	平成27年度目標見直し	年度実績	年度目標比較増△減	最終目標比較増△減
【定例】 野鳥ガイド	実施回数	40回	17回	36回					
	ガイド制服作成	実施。各ガイドに支給。	—	実施					
【定例】 野鳥の会 定例探鳥会	実施回数	12回	5回	12回					
野鳥ガイド	登録人数	40人	13人	20人					
	一人で解説できる野鳥ガイドの数	12人	4人	6人					
環境学習会	単発観察会実施回数	6回	1回	4回					
	今年度初参加者数	30人	—	15人					
有料催事	アウトドアメーカーへの訪問		—	1社					
	有料イベントの開催	3回	0回	1回					
	企業からの協賛協力	3回	0回	1回					
教員対象の環境学習プログラム	環境学習プログラムのカリキュラムを整備	教員対象プログラム年2回		作成					

4 重点的に取り組む課題 – (3) 広報・啓発の取り組み～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～		
計 画	将来像 (平成 31 年 3 月末時点)	<ol style="list-style-type: none"> <li>野鳥園自体の存在や環境学習を開催していることを市民に知ってもらう。</li> <li>さまざまな環境学習の活用のあることを知ってもらう。</li> <li>野鳥園を利用する渡り鳥の生態や魅力を市民が知ることで、自然環境への理解を深めてもらう。</li> </ol>
	現状 (課題設定の 根拠となる現状)	<ol style="list-style-type: none"> <li>野鳥園の認知度が低い。(閉園したと思っている人もいる。)</li> <li>府下では年間で最も多くの野鳥(150種)が見られること、特に湿地では年間90種近くの野鳥が利用していることに対する認知度が低い。</li> </ol> <p>※ 開園以後に野鳥園で記録された野鳥の種類:248種、その中で湿地を利用する種:140種(シギ・チドリ類:53種、カモ類:20種、サギ類:12種、それ以外:55種)</p>
	要因分析 (目指すべき将来像と現状 に差が生じる要因)	市民への広報不足。
	課題 (上記要因を解消するた めに必要なこと)	渡り鳥の魅力とそれを支える野鳥園の存在を発信し、効果的な媒体を利用する。
	戦略	<ol style="list-style-type: none"> <li>ホームページ以外の効果的な媒体による市民への情報発信。</li> <li>野鳥園に足を運んできた人に、親しみやすい掲示物や案内板の製作。</li> <li>ホワイトボードへの野鳥観察情報と写真の掲示。</li> <li>アンケートを実施し、野鳥園に対する利用者の評価や効果的な広報媒体を分析する。</li> </ol>



評価		中間評価 (評価日：平成○年○月○日)	年度評価 (評価日：平成○年○月○日)
	年度目標の 達成状況	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
	取り組み事項		
	自己評価		
	課題と改善策		
	委員評価		

重点的に取り組む課題 - (3) 広報・啓発の取り組み～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～ 点検表

具体的取組	計画				振り返り				
	点検項目	最終目標	現状(前年度までの実績)	平成27年度目標(当初)	中間実績	平成27年度目標見直し	年度実績	年度目標比較増△減	最終目標比較増△減
ホームページの充実	野鳥ガイド案内	実施	—	実施					
	各イベント案内	実施	—	実施					
区政だより、地元情報紙等の広報媒体にイベント情報掲載	地下鉄掲示板	2	—	1					
	大阪市HP	2	—	1					
	区役所にチラシ配備	実施	—	実施					
	※9月に開催する観察会について多方面での広報活動を行った上で、来場者にアンケートを実施し、効果的な広報媒体について調査する。								
展望塔内の展示スペースの活用	更新回数	4	—	2					
	野鳥写真の掲示	2	—	1					
	掲示板にイベントコーナー、お知らせコーナーの開設	実施	—	実施					
アンケートなどによる利用者ニーズの把握	常設アンケート	通年で実施	—	実施					
	野鳥ガイド時のアンケート	通年で実施	—	実施					

4 重点的に取り組む課題		－ (4) 各事業のトータルコーディネート～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～
計 画	将来像 (平成 31 年 3 月末時点)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門的知識を有する人材が、各事業を包括して設計、管理、指示することによって、事業全体を通して野鳥園の機能と役割が発揮でき、湿地の保全ができるようにする。</li> <li>2. どれかの事業に参加することにより、シギ・チドリ類を含む野鳥、湿地、生物多様性などについて実際に見て感じて理解できるようにトータルコーディネートする。</li> </ol>
	現状 (課題設定の 根拠となる現状)	湿地環境の保全に関して市民参加できるプログラムがない。
	要因分析 (目指すべき将来像と現状 に差が生じる要因)	干潟再生プロジェクトで干潟の管理内容を決めたうえで、市民が参加できる環境保全体験を組み込んだプログラムを実行に移す。
	課題 (上記要因を解消するた めに必要なこと)	干潟再生プロジェクトの内容を検討する中で、市民参加で出来る作業内容を決める。
	戦略	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境保全のための体験プログラムと環境学習プログラムの充実。</li> <li>2. トータルコーディネートに携わる人材の育成。</li> <li>3. トータルコーディネートに携わる人材の他湿地との交流による活性化。</li> </ol>

評価		中間評価 (評価日：平成○年○月○日)	年度評価 (評価日：平成○年○月○日)
	年度目標の 達成状況	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
	取り組み事項		
	自己評価		
	課題と改善策		
	委員評価		

重点的に取り組む課題 - (4) 各事業のトータルコーディネイト～鳥と人を呼ぶ野鳥園～ 点検表

具体的取組	計画				振り返り				
	点検項目	最終目標	現状(前年度までの実績)	平成27年度目標(当初)	中間実績	平成27年度目標見直し	年度実績	年度目標比較増△減	最終目標比較増△減
人材育成	トータルコーディネイトにかかわる職員の人材育成 (OJT)	5人	2人	4人					
他湿地の運営・管理者との交流	環境学習や干潟・湿地の管理手法に関する情報交換	2回	—	1回					
市民が参加できる環境保全体験	市民が参加できる環境保全体験を組み込んだプログラムの実施	2回	—	0回					